

環境情報の発信

富士通グループでは、様々な機会を通じて環境情報を発信し、国内外のステークホルダーの皆様との双方向コミュニケーションに努めています。

社会・環境報告書、ウェブサイトを通じた情報開示

富士通グループでは、環境経営に関する情報を積極的に社会へ開示し、透明性を高めることを目的に、1996年から環境経営の実績およびその成果を取りまとめた環境報告書を発行しています（2003年から社会的側面も含め、社会・環境報告書として発行）。また、環境ウェブサイトでは、社会・環境報告書に掲載している内容に加え、取り組み事例や最新の情報を適時掲載しています。

- [社会・環境報告書](#)

サイトレポートの発行

富士通の工場や事業所、またグループ会社で「環境報告書」を発行しており、地域の皆様やお客様に環境への取り組みを御理解いただくよう努めています。

- [工場 グループ会社の環境報告書](#)

展示会・イベントへの出展

2012年度に出展した主な展示会・イベント

展示会名	開催地	開催時期
国内		
川崎国際環境技術展	川崎市	2013年2月
エコプロダクツ2012	東京	2012年12月
カーボン・オフセットマッチング IN 高知	高知市	2012年11月
いしかわ"夢"未来博2012	金沢市	2012年11月
CEATEC	千葉市	2012年10月
エコライフやまがた2012	山形市	2012年10月
富士通レディース2012	千葉市	2012年10月
海外		
ASEAN Fujitsu Day 2012	マレーシア クアラルンプール	2012年10月
ITUグリーン・スタンダード・ウィーク	フランス パリ	2012年9月
Rio+20 「日本パビリオン」	ブラジル リオデジャネイロ	2012年6月



「ITUグリーン・スタンダード・ウィーク」(パリ)



「エコプロダクツ2012」(東京)

展示会・イベントにおける環境配慮

富士通では、富士通フォーラムや株主総会などの展示会・イベントにおいて、グリーン電力の積極的な活用による使用電力のカーボンオフセットや、紙類の削減、環境に配慮した資材の活用など、様々な側面から環境配慮に努めています。

2012年度は、合計で約39,000kWhの「グリーン電力証書」を購入しました。

カタログの印刷における環境配慮

富士通では、カタログを印刷する際に、環境に配慮した認証紙、インキ、印刷方式を採用しています。これにより、CO₂排出量の削減や、印刷時の有害廃液の排出量削減などに貢献しています。

ステークホルダーとの対話

富士通グループは、ステークホルダーの方々とともに持続可能な社会をつくるため、積極的なコミュニケーションを図っています。

環境ダイアログの実施

幅広いステークホルダーの皆様との双方向の対話を通じた環境経営の改善、また信頼関係を構築し社会との共創を図っていくことを目的に、環境ダイアログを実施しています。

2012年度の開催実績

2012年度は15名の有識者をお呼びし、合計7回のダイアログを実施しました。2012年度の初回および2回目は、2012年3月に実施したダイアログに引き続き、富士通の環境経営に関する主な実績や成果についてご紹介し、それに対するご意見や、社会とのコミュニケーションについて議論を行いました。3回目以降はこれまでのダイアログでの議論を踏まえて特定のテーマについてダイアログを行い、お互いの理解がさらに深まるよう努めました。

第1回：2012年4月17日 実施

【ご出席者】

- ・ マエキタ ミヤコ 様（サステナ代表）
- ・ 松野 泰也 様（東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻准教授）
- ・ 山下 加夏 様（一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン副代表兼気候変動プログラム・ディレクター）
- ・ ファシリテータ：枝廣 淳子 様（幸せ経済社会研究所所長）

第2回：2012年6月28日 実施

【ご出席者】

- ・ 後藤 敏彦 様（環境監査研究会代表幹事）
- ・ 江守 正多 様（国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室室長）
- ・ 浅羽 理恵 様（NPO法人川口市民環境会議代表理事）
- ・ ファシリテータ：枝廣 淳子 様（幸せ経済社会研究所所長）

【第1回、第2回の内容】

ご出席者からは「生物多様性の保全について取引先まで含めて活動を実施している点は先進的な取り組みである」、「環境活動はトップランナーであると思う」というコメントをいただきました。一方で、「その成果が社会に現れてきていない」というご指摘もあり、社会とのコミュニケーションの強化が課題であると再認識できました。また、企業の環境活動は「社会貢献の観点だけでは長続きしない。富士通は本業であるソリューションを通じて環境に貢献できることが最大の強み」など、本業を通じた取り組みについて議論を行いました。

- ・ [第1回、2回のダイアログの様子](#)

第3回：2012年12月18日 実施

テーマ：地球温暖化対策、森林保全活動

【ご出席者】

- ・ 鈴木 敦子 様（株式会社環境ビジネスエージェンシー代表取締役）
- ・ 松野 泰也 様（東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻准教授）
- ・ 山下 加夏 様（一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン副代表兼気候変動プログラム・ディレクター）
- ・ ファシリテータ：枝廣 淳子 様（幸せ経済社会研究所所長）

【主なご意見】

- ・ 個々人の生活の中でどうやってCO₂を削減するか、節電対策ができるか、これこそがICTの出番。（鈴木様）
- ・ 森林保全はいかに多くの人たちを巻き込むかが重要。企業がいなくなってもプロジェクトが継続されるように活動を自立させるべき。（鈴木様）
- ・ 富士通はICTソリューション、例えばスマートグリッドを活用した節電の推進などで多くの良いものを持っている。温暖化という切り口ではなく、省エネ・節電という切り口で間接的に温暖化対策につながっていると示したらどうか。（松野様）
- ・ 富士通自身が森林保全をするのではなく、データベースを作って保全活動を間接的に支援するなど、本業のICTを活用してビジネスにしないと継続した活動にならない。（松野様）
- ・ 森林減少は年間温室効果ガス排出量の約5分の1を占め、生物多様性や水資源の保全にも大きく関わる。グローバルICT企業として、今後どのような貢献ができるか、是非検討してもらいたい。（山下様）
- ・ 気候変動は人類共通の課題として取り組まなければならない。企業が政府にこういうことができるということを強く示していく分野としてICTソリューションは重要だと思う。（山下様）

第4回：2013年2月15日 実施

テーマ：エネルギー

【ご出席者】

- ・ 江守 正多 様（国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室室長）
- ・ 池原 庸介 様（WWFジャパン気候変動・エネルギー グループ プロジェクトリーダー）
- ・ ファシリテータ：枝廣 淳子 様（幸せ経済社会研究所所長）

【主なご意見】

- ・ 温暖化対策における2℃という目標について、このような影響があるから避けるべき、という社会的な議論をもっとするべき。そもそもの話をする機会が必要。（江守様）
- ・ 地球環境のために変革をもたらすことを考えたときに、過去を振り返ると、産業革命は「イノベーション」であったから産業構造が変わった。「理念」で社会を変革するのは難しいが、富士通が技術的に起こすイノベーションで社会が変わる可能性がある。（江守様）
- ・ 2050年までに世界のエネルギー需要の全てを再生可能エネルギーでまかなうことは技術的にも経済的にも可能。WWFのシナリオはその筋道を示している。（池原様）

- ・ 2050年やそれ以降の自社の姿、どうなりたいかの長期的なビジョンを持ち、どのように社会でICTを活用していくかについて描いて欲しい。(池原様)

第5回：2013年3月5日 実施

テーマ：環境コミュニケーション

【ご出席者】

- ・ マエキタ ミヤコ 様 (サステナ代表)
- ・ 浅羽 理恵 様 (NPO法人川口市民環境会議代表理事)
- ・ 水口 剛 様 (高崎経済大学経済学部教授)
- ・ ファシリテータ：枝廣 淳子 様 (幸せ経済社会研究所所長)

【主なご意見】

- ・ ICTの環境貢献についてのアピールについて、印象としてビジュアル以外の部分が多く、表現として昇華しないと人には飲み込めない。富士通の取り組みは素晴らしいものだが、厳密性を追求しているため、一般市民にはリアリティがないので、伝わらないのでは。(マエキタ様)
- ・ プレスリリースの内容からは分からないが、現場の人が大変だということをお話していただくと、伝わるのではないかと思う。(マエキタ様)
- ・ ICTの導入によって、どの様に暮らしが便利になっていくのか、街はどの様に良い方向に変わっていくのか、というごく普通の市民の関心がある視点からアプローチすると良いのでは。(浅羽様)
- ・ 市民の生活の中での具体的な事例、市民の声が聞こえ、顔が見えてくる様な事例を掲載すると活動のアピールに繋がる。社員の方による製品開発の背景、秘話など、ストーリー性のある発信。(浅羽様)
- ・ 「今あるものをどう伝えるか？」という論調であったが、「いかに社会的課題を解決したのか」ということの方が重要ではないかと思う。(水口様)

第6回：2013年3月8日 実施

テーマ：スマートシティ、資源

【ご出席者】

- ・ 藤田 壮 様 (名古屋大学連携大学院教授 国立環境研究所環境都市システム研究プログラム総括)
- ・ 村上 進亮 様 (東京大学大学院工学系研究科 システム創成学専攻 准教授)
- ・ 谷口 正次 様 (資源・環境ジャーナリスト)
- ・ ファシリテータ：枝廣 淳子 様 (幸せ経済社会研究所所長)

【主なご意見】

- ・ 民間の技術を提案するだけでなく官、民で連携するスマート都市やスマート資源循環の仕組みとして提案すると、成長戦略となる。(藤田様)
- ・ 企業側から大胆な将来像を提示してそこへのロードマップを描いて自らの技術の必要性を提示するアプローチも重要。企業側から将来像を描いて国や社会に発信し、提案することが、日本の新たな強み、競争力につながる。(藤田様)

- ・リサイクル制度の認知度が低いから集まらないと言われていたが、携帯電話など、リサイクル制度を知っているけれど出さない、という人が山のようにいるので、伝え方を工夫してみてもどうか。なぜ回収したいのかが伝われば、人々の行動も変わるかもしれない。（村上様）
- ・日本では鉱山が操業を止めた後にも、そこからの排水処理に莫大なお金が掛かっている。資源採掘は環境負荷が大きいですが、他方で必要不可欠でもある。よって資源採掘からリサイクル・廃棄物処理まで含めた持続可能な資源の利用の在り方を広く議論すべきなのだが、あまりなされていない。（村上様）
- ・サステナビリティは、現在世代のニーズを満足させるために将来世代のニーズを損なわないようにしなくてはならない。リサイクルは将来世代に資源を残すことにつながり、企業にとって価値が高い取り組みである。（谷口様）
- ・例えば貴重な資源を使うときはお金が掛かるというような税制等、社会的仕組みを変えて行くような施策も必要。（谷口様）

第7回：2013年3月22日 実施

テーマ：未来像

【ご出席者】

- ・竹村 真一 様（人類学者・環境思想家。京都造形芸術大学教授、Earth Literacy Program代表）
- ・鈴木 菜央 様（greenz.jp発行人、NPO法人グリーンズ代表理事）
- ・藤井 良広 様（上智大学大学院地球環境学研究科教授）

【主なご意見】

- ・人間の秘めたポテンシャルを解放していく様な、人間代替型ではなく、人間開発型のICTを目指すということを富士通は世界に発信してもらいたい。（竹村様）
- ・ICTを活かして人間の価値を高める機会を創るようなCSVビジョンは、日本企業の新たなチャンスとなる。（竹村様）
- ・一人ひとりが回りに働きかけ、自分のほしい社会を作り出していくという時代になりつつあり、一人ひとりの可能性が開かれた社会とも言える。人の間に入り込んでいくサービス・ICTを提案していくことが可能ではないか。（鈴木様）
- ・ICTが目的化していることがあるが、そこがゴールではなく、社会課題を解決していかなければいけない。（鈴木様）
- ・企業評価においては、財務や資産だけでなく、環境や社会側面の重要性が増しており、投資家はバランスシートを見ても企業価値がつかみにくくなってきている。（藤井様）
- ・富士通は既にこれだけの材料・技術を持っているので、いかに社会の期待に応え、社会を巻き込んでいくのかを期待したい。ある程度リスクをとり、社会貢献・ビジネスをやっていくべきである。（藤井様）



第5回 ダイアログ



第6回 ダイアログ

ダイアログを通じていただいたご意見を富士通グループの環境経営の改善や強化へと繋げていきます。これからも持続可能な社会の実現を目指して、社会の皆様とのコミュニケーションを大切にしていきます。

外部団体との連携

富士通グループは、国内外の外部団体への参加を通じて、環境経営の強化を図っています。

グリーンICTの推進を目指した外部団体との連携

富士通グループは、国際標準化団体をはじめとする外部団体での積極的な活動により、グリーンICTの普及を通じた地球規模の環境負荷低減への貢献を目指しています。

例えば、富士通グループのソリューションによる環境負荷低減効果を評価する手法は、これまで国際的に統一されていませんでした。そのため富士通は、電気電子部門の国際標準化団体ITU-Tの「ICTと気候変動グループ (SG5 WP3)」に参加し、その取り組みの結果、2012年3月にITU-T勧告「ICT製品・ネットワーク・サービスの環境影響評価手法 (L.1410)」として発表されています(注1)。国・地域レベルにおいても、日本のグリーンIT推進協議会(現在のJEITAグリーンIT委員会)調査分析委員長を務め、より実践的な環境影響評価手法の確立をリードするとともに、2013年度からスタートする電気電子業界の低炭素社会実行計画における製品・サービスの貢献量評価手法の確立にも貢献しました。加えて、データセンターの評価指標に関する日米欧の国際協調会議やISO/IEC JTC1 SC39 (Sustainability for and by Information Technology) 標準化会議にも参加しています。また日本データセンター協会(JDCC:Japan Data Center Council)において、業界代表としてデータセンターのエネルギー効率指標である「PUE (Power Usage Effectiveness) の計測・計算方法の策定、普及活動を先導しています。こうした取り組みにより、ICTによるCO₂排出量削減効果を国際的な枠組みで評価することが可能となり、国内外への導入促進などにつながることを期待されています。

このほかにも、環境に関する国際的な評価手法や指標の策定に取り組んでいます。その1つが、温室効果ガス排出量の算定・報告に関する国際的ガイドライン「GHGプロトコル」です。ICTライフサイクルの環境影響を評価する手法である「GHGプロトコル製品ライフサイクルの算定および報告基準 (ICTセクターガイダンス)」の策定に、運営委員会メンバーとして参加しています。また、ICT機器の資源効率向上や世界全体のデータセンターのPUE(注2)など、環境指標の定義に取り組む非営利団体「The Green Grid」にも深く関わっています。国内初のコントリビューターメンバー(注3)として2008年から参画し、2012年度は、EMEAテクニカル作業グループの副議長を務めました。

さらに富士通グループは、お客様に提供する製品に関しても、国際的に認められた手法でその持続可能性を評価するための活動に取り組んでいます。電気電子製品全般の環境関連規定を作成するIEC TC111において、温室効果ガス排出量算定に関する国際標準を作成するWG4の日本国内委員会に所属しています。また、AV機器やマルチメディア機器の国際標準を作成するIEC TC100においては、環境関連規格を担当するTA13の国際幹事および日本国内委員会主査を担当しています。

(注1) ICT製品・ネットワーク・サービスの環境影響評価手法の国際標準化：
[総務省のプレスリリース](#)




(注2) PUE (Power Usage Effectiveness) :
データセンターのエネルギー効率を表す指標の1つ。「データセンター全体の消費電力/データセンター内のIT機器の消費電力」の値で示される。

(注3) コントリビューターメンバー：
技術作業部会に参加し、開発の各段階における技術文書をレビューし、団体の将来的方向性の決定に貢献するメンバー。

富士通が参加している外部団体の一例




グリーンICT関係

グリーンICTの推進や普及、標準化活動。

- [JEITAグリーンIT委員会](#) 
- [The Green Grid](#) 
- [日本データセンター協会](#) 
- ISO/IEC JTC1 SC39 (Sustainability for and by Information Technology) の日本国内審議委員会およびタスクフォース
- ISO TC286 SC1 (Smart Urban Infrastructure Metrics) の日本国内審議委員会、運営委員会

気候変動関係

持続可能な低炭素社会の実現に向けた提言の実施や国際標準化の推進。

- [日本気候リーダーズ・パートナーシップ \(Japan-CLP\)](#) 
- [ITU and Climate Change \(国際電気通信連合電気通信標準化部門 \(ITU-T\)\)](#) 
- IEC (国際電気標準会議)
- [温室効果ガス \(GHG\) プロトコル](#) 

生物多様性関係

企業における生物多様性保全の推進。

- ビジネスと生物多様性イニシアティブ
- 企業と生物多様性イニシアティブ

製品化学物質・エコデザイン関係

含有化学物質情報を効率的に伝達する仕組みの検討。

- アーティクルマネジメント推進協議会 (JAMP)
- グリーン調達調査共通化協議会 (JGPSSI)
- (社) 産業環境管理協会

環境社会貢献関係

環境社会貢献活動の推進。

- (財) 世界自然保護基金ジャパン
- (財) 日本自然保護協会
- (財) 日本野鳥の会
- (財) 国際緑化推進センター

環境コミュニケーション関係

環境コミュニケーション活動の推進。

- 日本環境倶楽部
- ジャパン・フォー・サステナビリティ（JFS）

環境活動全般

- 情報通信ネットワーク産業協会
- （社）電子情報技術産業協会
- （社）日本経済団体連合会

など

外部表彰の受賞、外部からの評価

社会の持続可能な発展を目指す富士通グループの様々な取り組みは、多方面から高い評価を受けています。

2013年3月現在

主な外部表彰、外部評価（富士通グループ）

内容	年月	主催	対象
「低CO ₂ 川崎ブランド'12」に認定	2013年2月	川崎市	エントリーディスクアレイ ETERNUS DX60 S2, DX80 S2, DX90 S2
平成24年度「省エネルギー推進石川大会」でエネルギー管理優秀事業者の表彰を受賞	2013年2月	石川県電気使用合理化委員会	PFUテクノワイズ株式会社における節電活動
第16回「環境経営度調査」で4位を獲得	2013年1月	日本経済新聞社	環境経営への取り組み
「Business and Industry Award（経済産業賞）」で環境賞を受賞	2013年1月	リチャードソン商工会議所	富士通ネットワークコミュニケーションズの持続可能性への取り組み
「第9回エコプロダクツ大賞」エコサービス部門 エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞	2012年11月	エコプロダクツ大賞推進協議会	パブリック型クラウドサービス Fujitsu Global Cloud Platform「FGCP/S5」
グリーンITアワード2012「ITによる社会の省エネ（by IT）」部門 経済産業省 商務情報政策局長賞を受賞	2012年10月	グリーンIT推進協議会	パブリック型クラウドサービス Fujitsu Global Cloud Platform「FGCP/S5」
カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト「カーボン・パフォーマンス・リーダーシップ・インデックス（CPLI）」および「カーボン・ディスクロージャー・リーダーシップ・インデックス（CDLI）」に選定	2012年10月	カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト	温室効果ガス排出量の削減と気候変動リスクの緩和、および気候変動情報開示に対する活動
「Newsweek Green Rankings 2012」で17位を獲得	2012年10月	Newsweek	環境影響、環境マネジメント、環境情報公開
「Best of Show Award」特別賞（フロンティア・チャレンジ部門）を受賞	2012年6月	Interop Tokyo 2012	地中熱採熱システム
「21st Century Achievement Award（21世紀の偉業賞）」環境部門を受賞	2012年6月	Computerworld	東日本大震災における富士通グループの対応

内容	年月	主催	対象
「SEGES (シージェス) (社会・環境貢献緑地評価システム) Superlative Stage (スパラティブ・ステージ) の認定取得	2012年4月	財団法人都市緑化機構	富士通沼津工場の緑化活動